

# ネット ワーク 通信

社会広聴アンケート…………… ①  
「高齢期の暮らしに関するアンケート」調査結果

動き出す SDGs…………… ⑧  
セイコーエプソン

企業と生活者懇談会…………… ⑨  
大和ハウス工業（奈良）  
大成建設（東京）

ご意見・ご感想…………… ⑰

経済広報センターニュース…………… ⑱



# 「高齢期の暮らしに関するアンケート」調査結果

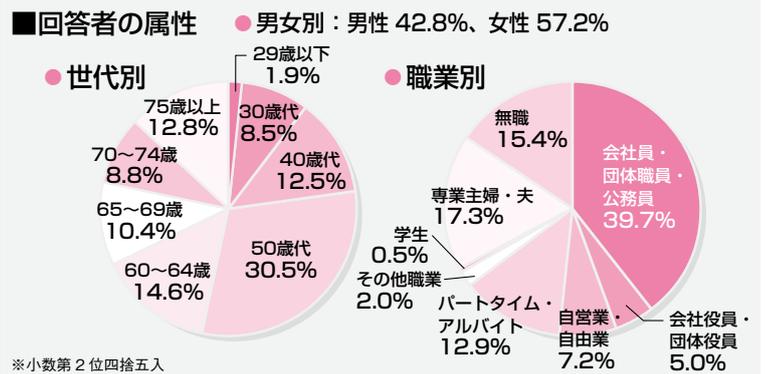
## 「シニア」は60歳以上、「老人」「高齢者」は70歳以上をイメージ

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年、75歳以上の高齢者の割合は全人口の18.1%、65歳以上の高齢者の割合は30.3%と予想されています。「高齢者」の定義は、一般的に「65歳以上」とされてきましたが、現代では心身共に元気な人が多く、この定義を見直す動きもあります。「人生100年時代」に高齢者から若者まで、全ての人が元気に活躍し続けられる社会や安心して暮らすためにどうすればよいか、一人ひとりが、考えておくべき大切なテーマです。

そこで、経済広報センターは、高齢期の暮らし方や高齢期に向けての備え、健康維持増進や疾病予防への取り組みについて調査しました。

### 調査の概要

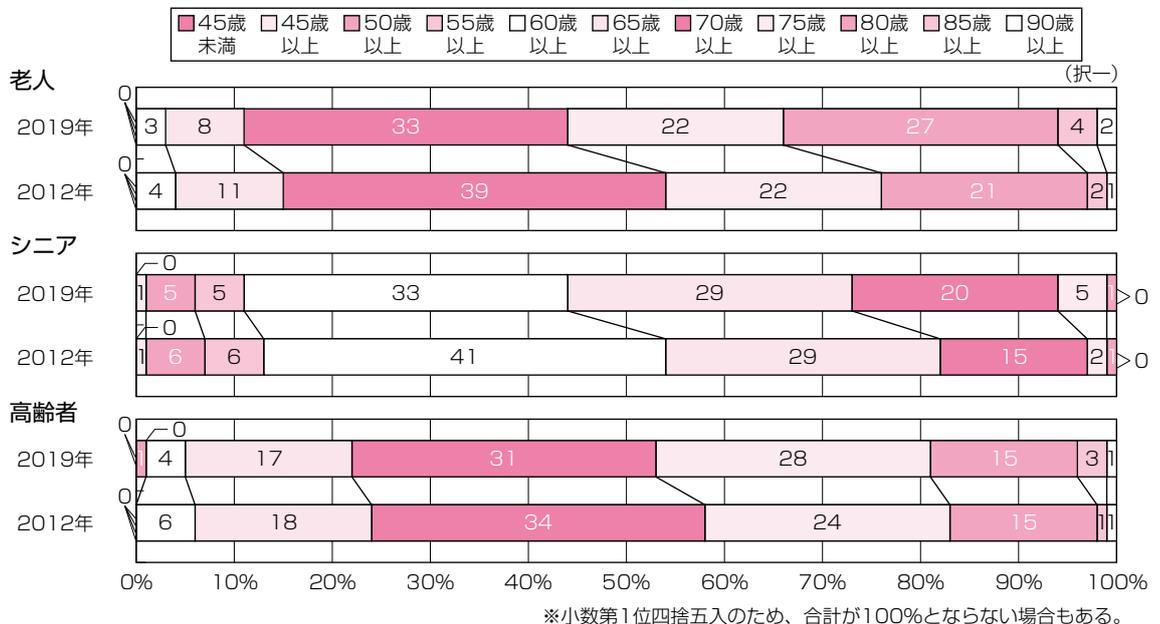
- (1) 調査名称：高齢期の暮らしに関するアンケート
- (2) 調査対象：経済広報センターのeネット  
社会広聴会員 2841人
- (3) 調査方法：インターネットによる回答選択方式  
および自由記述方式
- (4) 調査期間：2019年7月25日～8月5日
- (5) 有効回答：1536人 (54.1%)



## 1 「老人」「シニア」「高齢者」の言葉からイメージする年齢

### Point 「シニア」は60歳以上、「老人」「高齢者」は70歳以上をイメージ

#### 年別・全体



「老人」「シニア」「高齢者」それぞれの言葉から思い浮かべる年齢は何歳以上かを聞いたところ、「老人」について、最も多いのは「70歳以上」(33%)で、次が「80歳以上」(27%)である。「シニア」については、「60歳以上」(33%)が最も多く、次いで「65歳以上」が29%。「高齢者」については、最も回答が多いのは「70歳以上」(31%)で、次が「75歳以上」(28%)となっている。

「シニア」の言葉からは60歳以上、「老人」や「高齢者」からは70歳以上をイメージしている。

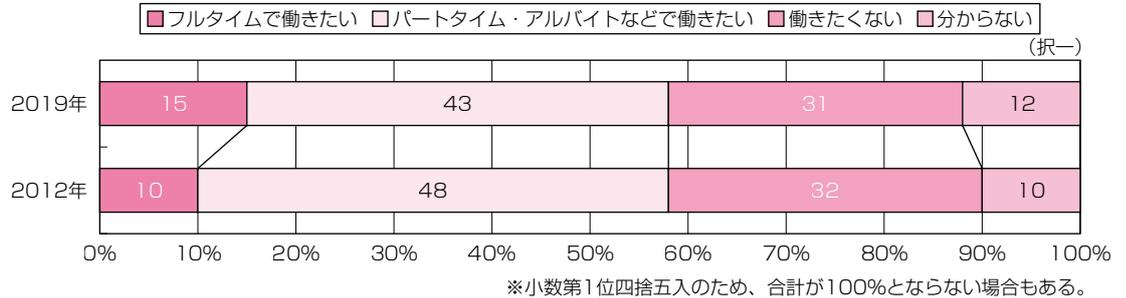
2012年調査と比べると、「老人」「シニア」「高齢者」共に、言葉からイメージする年齢が高くなっている傾向が見られる。

## 2 高齢期の就業

### (1) 働く意向

**Point** 「フルタイムで働きたい」が増加傾向

年別・全体



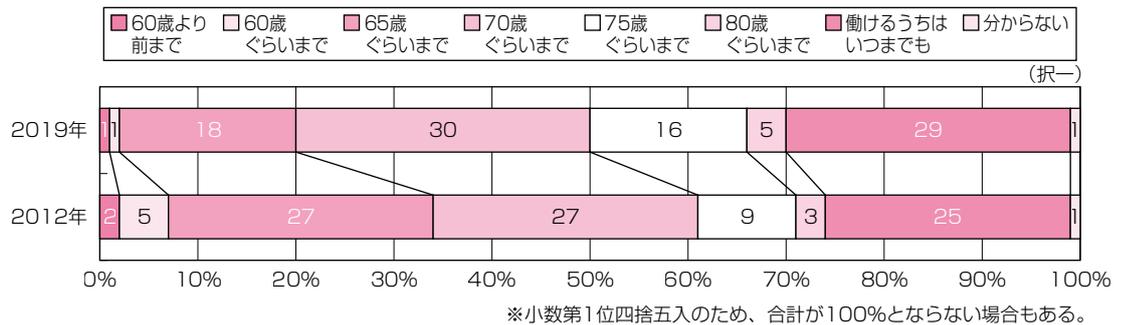
高齢期に働きたいと思うかを聞いたところ、「パートタイム・アルバイトなどで働きたい」(43%)、「フルタイムで働きたい」(15%)を合わせると6割(58%)が「働きたい」と回答し、2012年調査(58%)と同様である。

その内訳を2012年調査と比べると、「フルタイムで働きたい」は5ポイント上昇(2012年10%)。一方「パートタイム・アルバイトなどで働きたい」は5ポイント減少し(2012年48%)、働きたいと思う勤務形態が変化している。

### (2) 働き続けたい年齢

**Point** 「70歳ぐらいまで働きたい」「いつまでも働きたい」が共に3割

年別・全体



高齢期に働く意向がある回答者58%(2-1)を対象に、何歳まで働きたいかを聞いたところ、「70歳ぐらいまで」(30%)が最も多く、次に「働けるうちはいつまでも」が29%に上る。

また、2012年調査と比較すると、「65歳ぐらいまで」が、18%で9ポイント減少している(2012年27%)。一方「70歳ぐらいまで」「75歳ぐらいまで」「80歳ぐらいまで」「働けるうちはいつまでも」は、それぞれポイントが上昇し(2~7ポイント)、働き続けたい年齢が高くなっている。

\*この調査では、回答者に対して、高齢期を「定年退職後、または定年がない場合は60歳以降に、おおむね自立して生活できている状況」と想定して回答することを求めた。また、既に高齢期を迎えている回答者には、高齢期の暮らし方についての意向では現在の考え・気持ちを、高齢期に向けての備えでは、現在備えていることに加え、備えていたことについても回答することを求めた。

社会広聴アンケート

詳細をご覧になりたい方は!

経済広報センター 社会広聴アンケート

検索

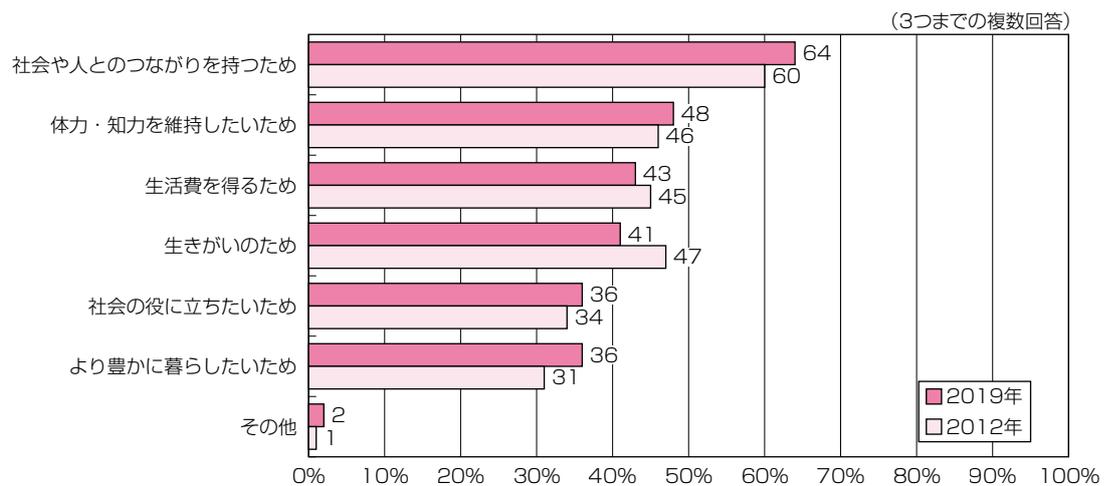
<https://www.kkc.or.jp/>



### (3)働く理由

#### ● Point 高齢期に働くのは「社会や人とのつながりを持つため」が64%

##### 年別・全体



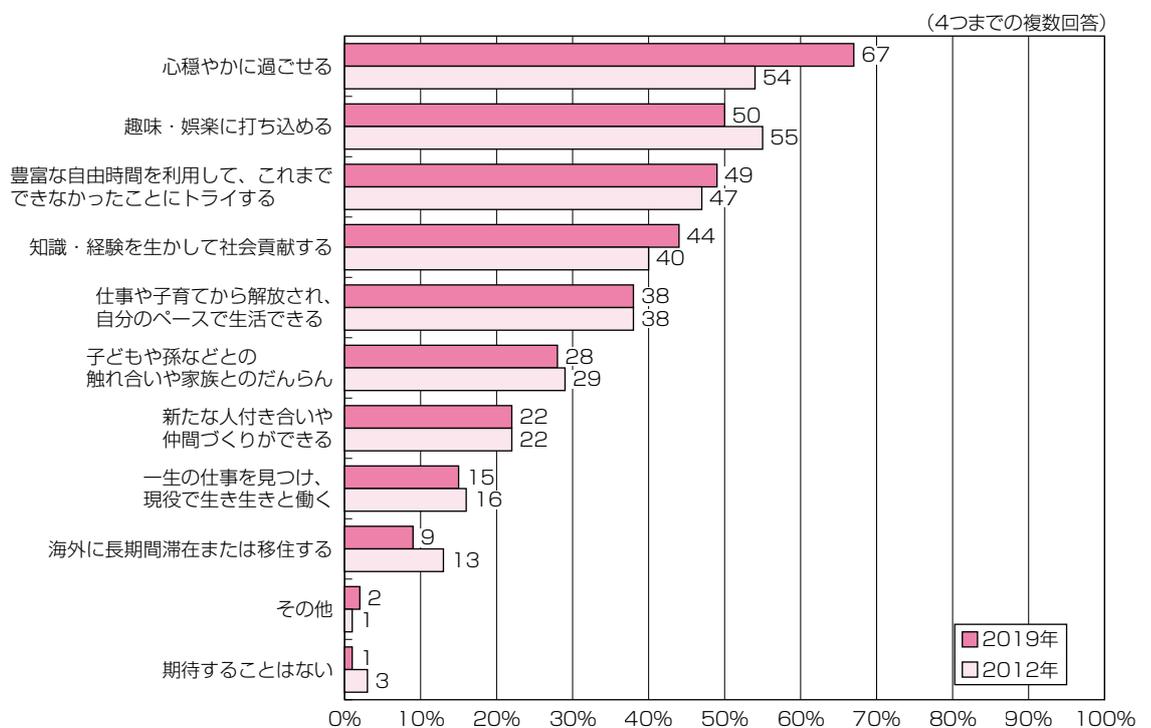
高齢期に働く意向がある回答者58%（2 - (1)）を対象に、働きたいと思う理由を聞いたところ、「社会や人とのつながりを持つため」が64%と2012年調査（60%）同様、最も多い。以下、「体力・知力を維持したいため」（48%）、「生活費を得るため」（43%）、「生きがいのため」（41%）が続く。

## 3 高齢期の生活・暮らし

### (1)期待すること

#### ● Point 「心穏やかに過ごせる」が6割を超える

##### 年別・全体

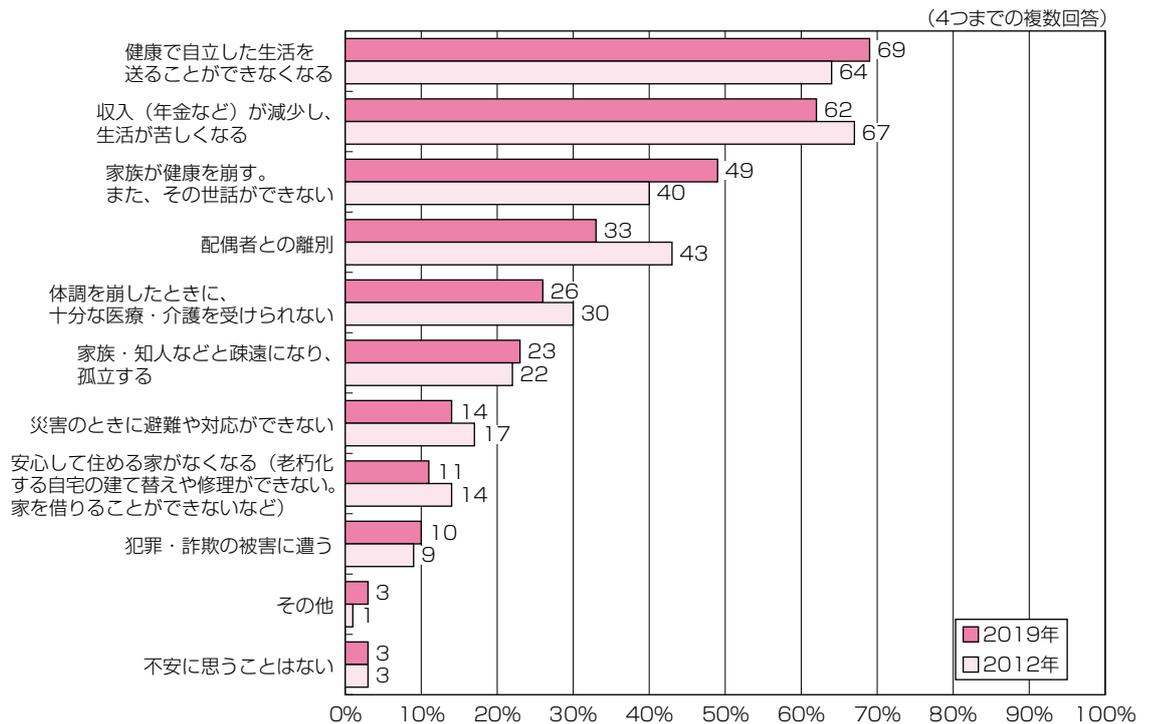


高齢期の生活・暮らしについて期待することを聞いたところ、「心穏やかに過ごせる」（67%）が突出し、安らぎや安定を求めつつ、「趣味・娯楽に打ち込める」（50%）、「豊富な自由時間を利用して、これまでできなかったことにトライする」（49%）、「知識・経験を生かして社会貢献する」（44%）など、アクティブな暮らしを望む一面も見える。

## (2) 不安に思うこと

### Point 健康への不安が経済的不安を上回る

年別・全体

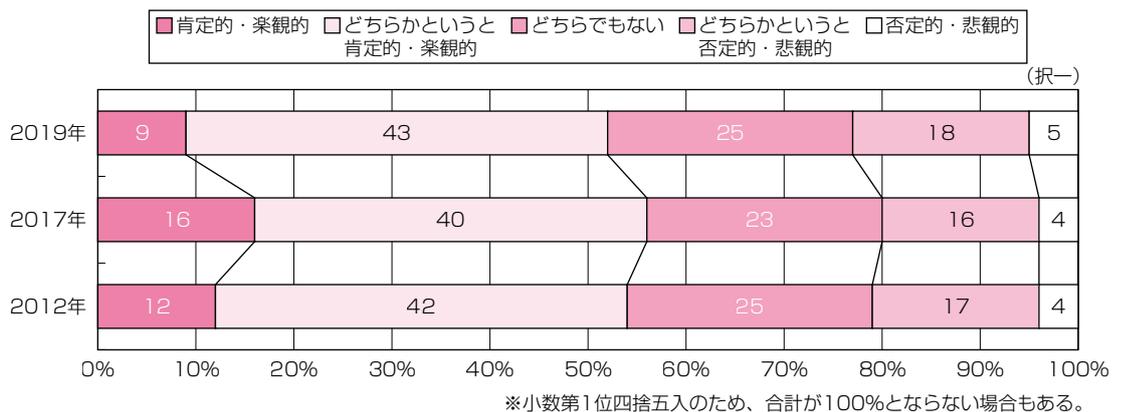


高齢期の生活・暮らしについて不安に思うことを聞いたところ、「健康で自立した生活を送ることができなくなる」が69%（2012年64%）、「収入（年金など）が減少し、生活が苦しくなる」が62%（2012年67%）となり、2012年調査でトップだった経済的不安より健康への不安が7ポイント上回っている。続いて「家族が健康を崩す。また、その世ができない」（49%）、「配偶者との離別」（33%）など、家族に起こり得る項目が挙がっている。

## (3) 意識

### Point 「肯定的・楽観的」が5割を超えるが、前回調査より4ポイント減少

年別・全体



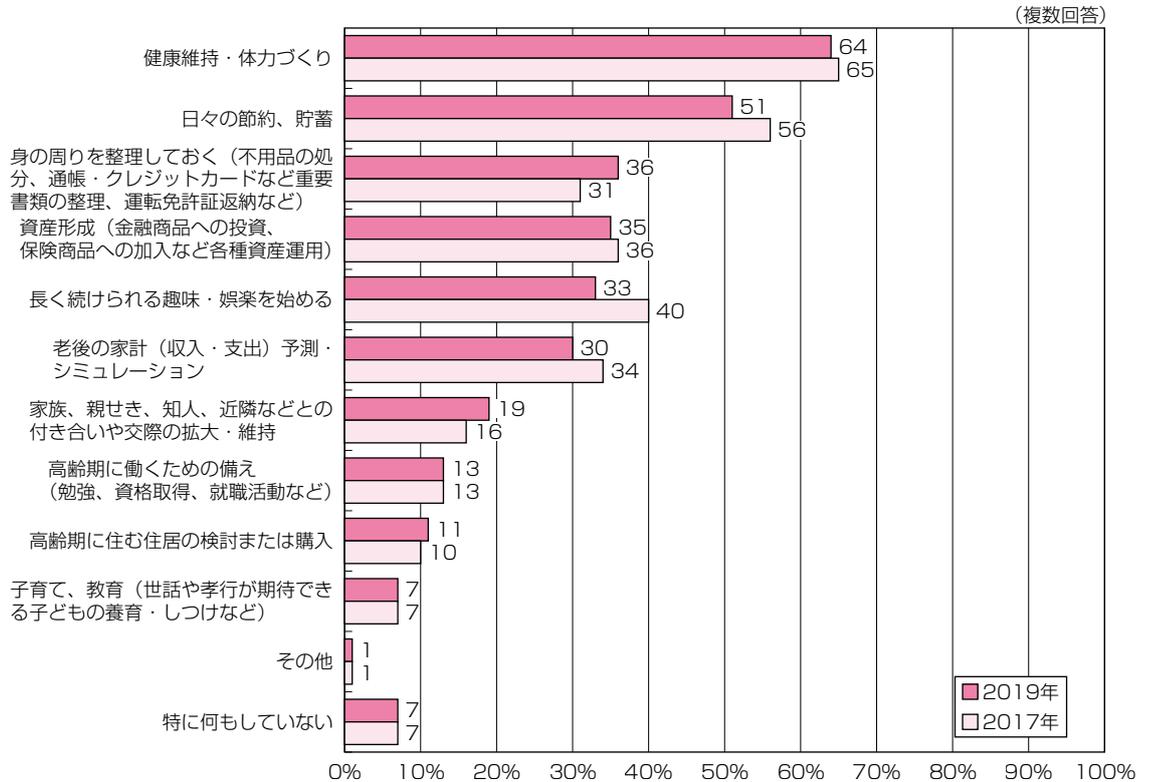
高齢期の生活・暮らしについて楽観的に考えているか、悲観的に考えているかを聞いたところ、「どちらかというと肯定的・楽観的」が43%と最も多い。

しかし、「肯定的・楽観的（肯定的・楽観的／どちらかというと）」（52%）を2017年調査と比較すると、4ポイント減少し（2017年56%）、「否定的・悲観的（否定的・悲観的／どちらかというと）」（23%）が3ポイント上昇している（2017年20%）。

## 4 高齢期に向けての備え

### Point 高齢期に備えて「健康維持・体力づくり」に取り組む

年別・全体

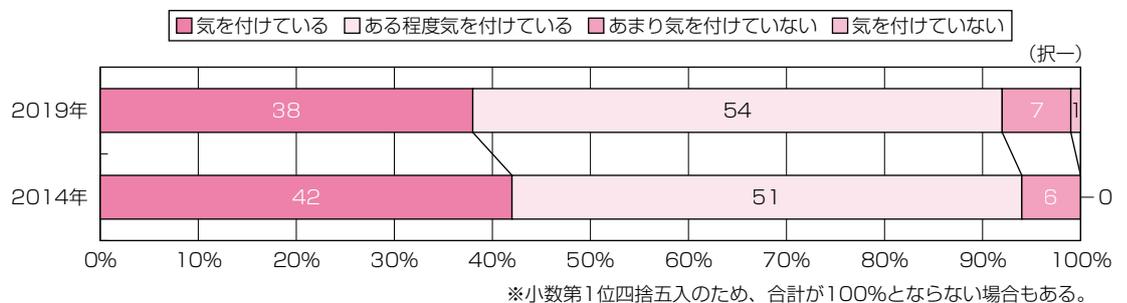


高齢期に向けてどのような備えをしているかを聞いたところ、「健康維持・体力づくり」が最も多く（64%）、続いて「日々の節約、貯蓄」（51%）、「身の周りを整理しておく（不用品の処分、通帳・クレジットカードなど重要書類の整理、運転免許証返納など）」（36%）、「資産形成（金融商品への投資、保険商品への加入など各種資産運用）」（35%）となっている。重要書類や資産、それらにおける手続きなどを元気なうちに行い、高齢期に備えている項目も上位に挙がっている。

## 5 健康に対する意識

### Point 9割が日常生活で健康を意識

年別・全体



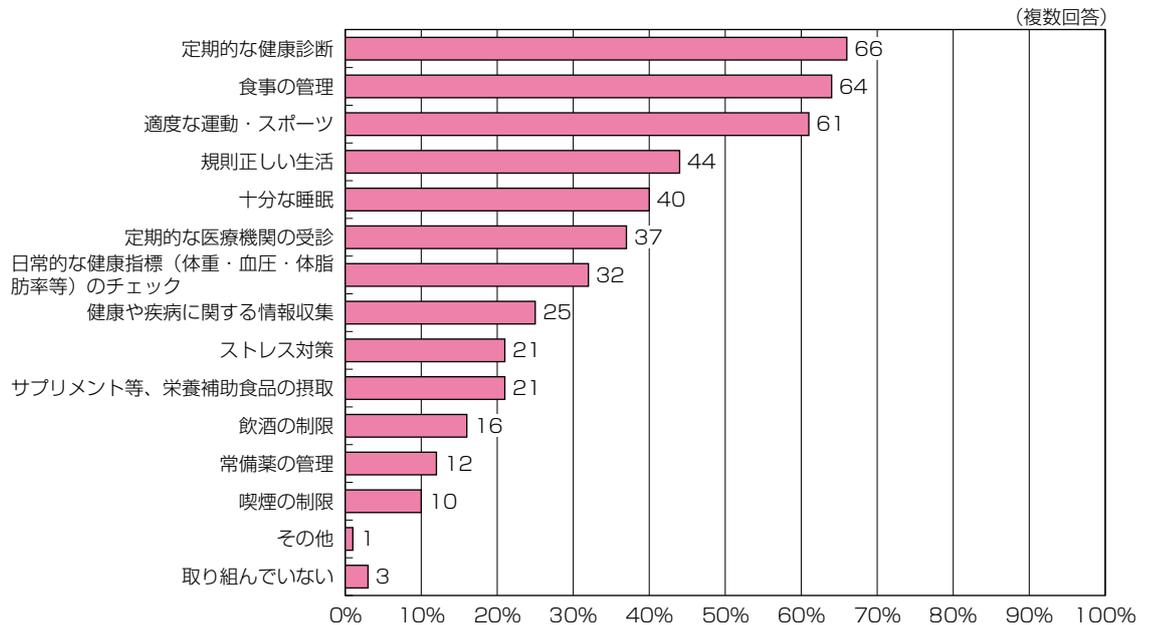
日ごろ、自身の健康に気を付けて生活しているかを聞いたところ、「気を付けている」38%、「ある程度気を付けている」54%と、「気を付けている（気を付けている／ある程度）」が92%となり、2014年調査（93%）同様、9割となっている。一方、「気を付けていない（あまり／気を付けていない）」は1割に満たない（「あまり気を付けていない」7%、「気を付けていない」1%）。

## 6 健康維持増進や疾病予防

### (1) 取り組み

**Point** 健康維持増進や疾病予防のための取り組みは「定期的な健康診断」が66%

全体

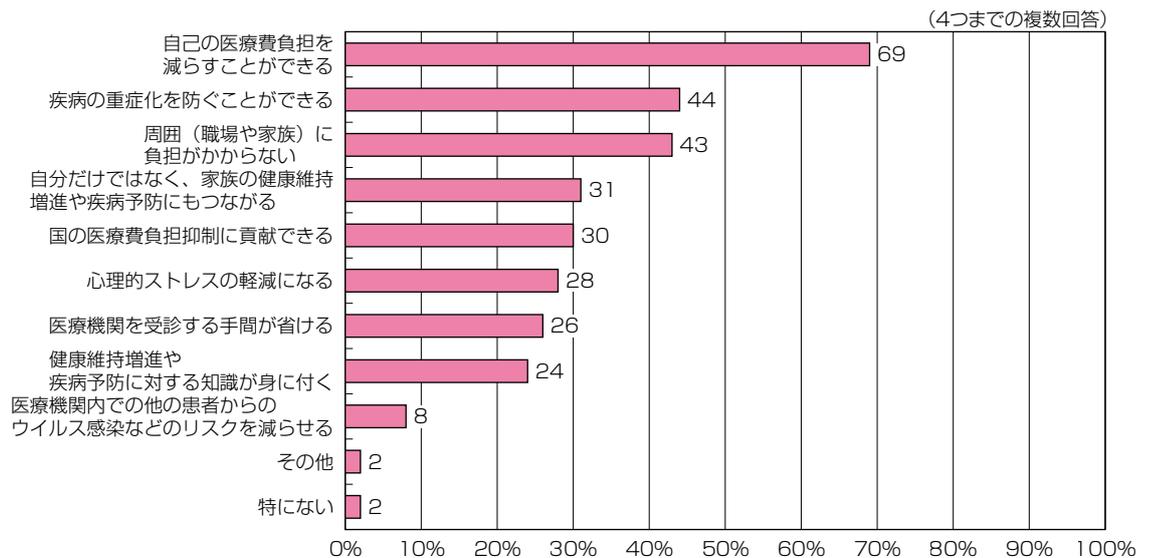


自身の健康維持増進や疾病予防のために、現在取り組んでいることを聞いたところ、「定期的な健康診断」が66%で最も多い。続いて、「食事の管理」（64%）、「適度な運動・スポーツ」（61%）となっている。「規則正しい生活」（44%）、「十分な睡眠」（40%）も4割以上である。

### (2) メリット

**Point** 健康維持増進や疾病予防が自己の医療費負担の軽減につながるが7割

全体



自身で健康維持増進や疾病予防に努めることにより、どのようなメリットがあると思うかを聞いたところ、「自己の医療費負担を減らすことができる」が69%と突出して高い。続いて、「疾病の重症化を防ぐことができる」（44%）、「周囲（職場や家族）に負担がかからない」（43%）が4割以上となっている。

# 高齢期の暮らしに関する意見・感想

## 39歳以下の意見・感想

- ◆できる限り自分の人生は自分で守り、人生を楽しく構築したいし、そのために努力していきたいです。
- ◆老後に安心して暮らせるような年金制度にしてほしいです。
- ◆楽しく生き生きと暮らしたいですが、今の社会を見ると、そうできる気がしません。
- ◆高齢化の時代に合った医療や運転免許等のルールの整備が必須だと考えます。
- ◆長く働きたい人のために、一律の定年制度の廃止をしてほしいです。
- ◆認知症や寝たきりになって子どもに迷惑をかけないか不安。ぴんぴんころりと逝きたいです。

## 40歳代の意見・感想

- ◆今は共働きで子育て、仕事と大変なので、高齢期はゆっくりと過ごしたいです。
- ◆退職後、どんどん進むIT化に、自分の知識や設備が追い付いていけないのが不安です。
- ◆高齢期に入ってから生活習慣や食生活を見直したり、健康管理に気を付けたりしても手遅れになることもあります。早いうちから意識的に生活を送るよう心掛けるべきです。
- ◆仕事をしなくなると、外とのつながりがなくなり、積極的に出掛けていくような体力もなく、精神的にも孤立してしまうのではないかと不安です。
- ◆親のことについて相談し合える兄弟がいて、とても心強いです。兄弟に限らず、相談できることはとても大事だと思います。

## 50歳代の意見・感想

- ◆高齢期に不安がないわけではなく、具体的に考えなければいけないとは思いますが、どうしても先延ばしになってしまいます。
- ◆生き生きした高齢期の方が多いので、年寄り扱いしないことが肝要だと思います。
- ◆資産形成の際の目安などでよく夫婦2人世帯が基準となることが多いですが、一人暮らしでのシミュレーションもあるとよいです。

- ◆高齢者を標的とする犯罪が、将来の不安材料です。
- ◆尊厳死や安楽死について論議が高まってもよいと思います。
- ◆自分たちの老後の前に、親の面倒で老老介護の暮らしが心配です。

## 60歳代の意見・感想

- ◆寿命が延びても健康でなければ充実した生活を送ることができないので、健康を第一に考え、健康寿命を延ばしていきたいです。
- ◆身の周りを整理してできるだけモノを減らし、身軽な状態になっておかなければと思います。
- ◆ストレスを溜めないで、好きな趣味を生かして日々穏やかに過ごせるよう努力しています。
- ◆健康で体力がある限り仕事をしていきたいです。仕事することは社会との接点を持つことになり、社会貢献につながると思います。
- ◆高齢者と呼ばれる年齢になりましたが、私自身は高齢者とは思っていません。
- ◆東京一極集中が大きな問題です。首都の移転も含め、地方を見直し、誰もが均等に医療や福祉、働く場所を選べる国になるべきです。

## 70歳以上の意見・感想

- ◆高齢者もITの知識を身に付ける必要がありますが、その機会があまりありません。スマホやパソコンの使い方などを教えてくれる場所が必要です。
- ◆高齢期ということで消極的にならず、積極的に何かにトライする姿勢が大事だと思います。
- ◆高齢でも働ける体制といいつつも、実際には職種が限られ、自身で起業するには様々なりリスクがあり、チャレンジし難い現実があります。
- ◆定年前にセミナーで、定年後の過ごし方について学びました。自分に合った老後を選択できたおかげで、現在は元気で充実した日々を送っています。
- ◆世の中の風潮や流行、偏向した主張やアドバイスに踊らされないことが大切だと思います。

(文責 主任研究員 山崎安希子)

# DNAである「省・小・精の技術」を核に、SDGsへ貢献 セイコーエプソン株式会社

## ■「誠実努力」、「創造と挑戦」で、新たな価値創造を目指す

セイコーエプソンは、1942年創業。「諏訪の地を東洋のスイスにしたい」という創業者山崎久夫の志のもと、諏訪の地に時計産業を根付かせ、精密工業の地へと発展させてきました。

同社の強みは、創業以来培ってきた「省（省エネルギー）・小（小型化）・精（高精度）の技術」です。世界初の「クォーツウォッチ」や世界初の「小型軽量プリンター」など“世界を変えた技術”に加え、お客さまに向き合う「誠実努力」の姿勢とお客さまの期待を超えようと「創造と挑戦」することが同社のDNAとなっています。今よりもっと豊かで人々が幸せを感じられる社会を創り上げたいというこうした想いは、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成と目的を同じくするものです。

また、同社は2019年3月に制定した2025年に向けた長期ビジョン「Epson25 第2期中期経営計画」において4つの領域（インクジェット、ビジュアル、ウェアラブル、ロボティクス）でのイノベーションをさらに強化。これまで以上にパートナーシップによる協業、オープンイノベーションを加速していくため、SDGs 14項目での目標達成に取り組んでいます。

## ■資源を気にせず印刷できるオフィス環境の実現

セイコーエプソンは、多くのイノベーションを通してSDGsに貢献しています。例えば、大容量インクタンクプリンターでは、インクカートリッジモデルに比べて印刷コストを10分の1<sup>\*1</sup>にし、消耗品や包装材に関わる資源消費量も低減。オフィス向け的高速ラインインクジェット複合機では、消費電力を一般的なレーザー複写機の8分の1<sup>\*2</sup>に低減し、印刷スピードも大幅に向上させました。その一方で、水を使わずに<sup>\*3</sup>使用済みの紙をオフィス内で再生する乾式オフィス製紙機「PaperLab

A-8000」を開発。紙資源を循環可能にし、印刷コストや環境負荷に対するお客さまの心配事を取り除くことで、「紙による豊かなコミュニケーション」による生産性の向上に貢献します。

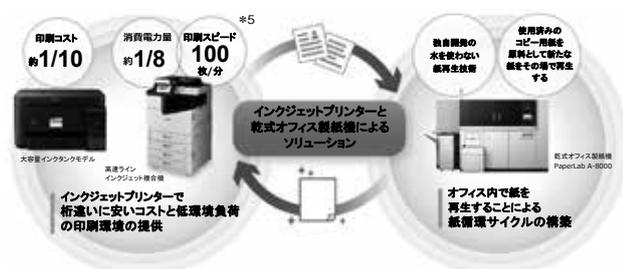
また、プロジェクターを使って「質の高い教育現場」を提供しています。ICT（情報通信技術）による学びの充実、教育の質の向上を目指し、超短焦点での大画面投影や電子黒板機能を搭載したプロジェクター、ほこりや砂じんが多い地域に向けて2006年、世界初<sup>\*4</sup>となる防じんプロジェクターの開発を行い、教育現場からも高い評価を得ています。

## ■数々のSDGsフォーラム、シンポジウムで発表

2019年2月に、一般社団法人企業研究会が主催するESG/SDGs対応フォーラム（笹谷塾）を同社新宿事業所にて開催。環境配慮型オフィスの事例紹介をはじめ、社会的関心の高まるESG投資や、持続可能性の世界共通言語であるSDGsを最新の社会動向や企業事例から学び、企業価値向上につなげるための活動を行いました。また、4月には長野県およびG20関係閣僚会合長野県推進協議会などの関係団体主催による「長野県SDGsシンポジウム」に県内企業を代表して参加しました。同社は、2018年度長野県地域SDGsコンソーシアムにオブザーバー企業としても参画し、長野県および他の企業とともに「長野県SDGs推進企業登録制度」の検討に携わるなど官民連携の地域創生SDGsに貢献しています。

セイコーエプソンは、より良い社会の実現へ中心的な役割を果たし「なくてはならない会社」でありたいと志を高く持ち、新しい価値の創造、SDGsへの貢献を行っています。

（文責 主任研究員 吉満弘一郎）



紙資源のオフィス内循環実現



長野県SDGsシンポジウムに参加（2019年4月）

- \*1：大容量インクタンクモデル「EW-M670FT」のA4文書の印刷コストを、エプソンのレーザープリンター「LP-M620F」と比較
- \*2：高速ラインインクジェット複合機「LX-10000Fシリーズ」の消費電力量。A3カラー複合機45～55枚/分クラス10機種を販売台数上位より選択（2016年の出荷台数出典：IDC「sWorldwide Quarterly Hardcopy Peripherals Tracker 2017Q3」）し、各機種における印刷1枚当たりの消費電力量の平均値との比較。energystar.jp/に登録されているTEC値（2017年11月）を採用し、TEC算出条件を用いて1枚当たりの値を算出
- \*3：2006年当時
- \*4：機器内の湿度を保つために少量の水を使用
- \*5：高速ラインインクジェット複合機「LX-10000Fシリーズ」の印刷スピード。A4横片面の場合。印刷スピード算出方法についてはこちら<https://www.epson.jp/products/printer/sokutei.htm#bizprinter09>

# 企業と生活者懇談会

第228回【奈良 2019年7月5日】

## 大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所

人・街・暮らしのより良い未来をつくる  
アスファケツノ技術とは

7月5日、大和ハウス工業の総合技術研究所（奈良県奈良市）で「企業と生活者懇談会」を開催し、社会広聴会員17名が参加しました。はじめに、大和ハウスグループが事業を展開する3つの分野①ハウジング分野、②ビジネス分野、③ライフ分野について説明を受けた後、総合技術研究所を見学。安全・快適を実現するテクノロジーや未来を見据えて研究を進めている領域についての理解を深め、最後に質疑懇談を行いました。

大和ハウス工業からは、総合技術研究所の広沢建二副所長、大槻卓也新領域技術研究部長、広報企画室の友友雅弘広報グループ上席主任、松木さやか東京広報グループ主任が出席しました。

### ● 大和ハウス工業からの説明

#### ■ 大和ハウスグループの歴史

大和ハウスグループの歴史は、1955年に創業者の石橋信夫が“建築の工業化”という理念のもと、大和ハウス工業を創業し「パイプハウス」を発売したことに始まります。パイプハウスとは、大型台風で多くの住宅が倒壊したとき、強風にも折れない稲や竹をヒントに開発されたスチールパイプを活用した仮設建物で、骨組みや壁などの部品を工場で大量に生産できることと、現場で簡単に組み立てられることが特徴で、国鉄で採用されたのをきっかけに官公庁を中心に倉庫や事務所など日本全国に普及し、高度経済成長を支えました。

その後、戦後のベビーブームの際には“3時間で建つ勉強小屋”としてプレハブ住宅の原点「ミゼットハ

ウス」を発売。住宅不足が問題となった際には民間初のデベロッパーとして大規模団地を開発するとともに住宅ローンの先駆けとなるサービスを提供。人々の生活が豊かになるのに合わせてリゾート事業に本格参入。このようにして、時代の変化の中で常に先の先を読みながら、社会が必要としている商品やサービスを次々と創出し、事業の道を切り拓いていきました。

現在では、グループ全体で従業員数は約6万8500名、売上高は約4兆1000億円。「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、住宅を中核に多岐にわたる事業を展開しています。

#### ■ 3つの事業分野

大和ハウスグループの主な事業分野は、①ハウジング分野、②ビジネス分野、③ライフ分野の3種類に分類することができます。

##### ① ハウジング分野

戸建住宅・賃貸住宅の建築やマンションの販売・管理、インテリア提案や仲介事業など、住まいに関わる様々な事業を展開しています。これまでに累計で約180万戸の住宅を販売してきました。長年にわたる住まいへの知恵とノウハウ、そして経験に培われた最新技術を駆使し、高耐震・高耐久・省エネの家づくり・街づくりを推進しています。また、近年では空き家問題への対策の1つとして、既存住宅を購入し、リノベーションあるいはリフォーム後に再販する住宅ストック事業「Liveness（リブネス）」にも注力しています。

##### ② ビジネス分野

商業施設や物流施設、医療・介護施設などの建築や管理・運営、建物の屋上・壁面などの総合緑化、会員制のカーシェアリング事業、太陽光・風力・水力による発電事業、公民連携により社会課題の解決を目指すPPP事業など、お客さまのニーズに合わせた幅広いソリューションを提供しています。

##### ③ ライフ分野

“心まで豊かな暮らし”をモットーに、ホテル事業やゴルフ場を運営するとともに「スポーツクラブNAS」

を全国に展開しています。その他にも、ホームセンター「ロイヤルホームセンター」や介護付有料老人ホーム「もみの樹」「ネオ・サミット」、クレジットカード「ダイワセゾンカードHeart One（ハートワン）」なども手掛けており、快適でゆとりある毎日を過ごせるよう、暮らしのあらゆるシーンのお手伝いを目指しています。

## ● 見学の様子

### 総合技術研究所の概要

総合技術研究所は、約3万平方メートルの広大な敷地に広がる研究施設で、様々な分野の研究者が、これからの社会課題を解決していくための“ア・ス・フ・カ・ケ・ツ・ノ”技術をキーワードとして、日々、研究開発に取り組んでいます。

#### ア：安全・安心

天災・人災に対して安全を確保することや住まう人にとっての安心を提供できることを主眼としています。これまでの成果として震度7クラスの地震エネルギーに繰り返し耐えられる耐震技術「Σデバイス」などが挙げられます。

#### ス：スピード・ストック

建築の工業化のパイオニアとして、時代を先取りして対応することにより、良質なストックの末永い活用を目指しています。これまでの成果として狭小空間点検ロボット「moogoo（モーグー）」などが挙げられます。

#### フ：福祉

少子高齢化の進む中、全ての人に対する繊細な配慮を追求し、ユニバーサルデザインに美しさの観点を加えた「フレンドリーデザイン」を提唱しています。これまでの成果として靴の着脱をサポートする「スライドベンチ付きシューズボックス」などが挙げられます。

#### カ：環境

自然エネルギーの利用や省エネルギー・緑化の推進、資源循環などにより、次世代にわたって心豊かに生きることのできる社会の実現を目指しています。これまでの成果としてPM2.5や二酸化窒素などの大気汚染物質を浄化できる「大気浄化壁面緑化システム」などが挙げられます。

#### ケ：健康

心と体の健康について、従来からの建築学的な観点

に医学的なアプローチも加えて研究開発を進めています。これまでの成果として在宅しながら日々の健康チェックが可能な「インテリジェンストイレ」などが挙げられます。

#### ツ：通信

長年培ってきた建築技術や生活提案と通信技術を組み合わせることによって、新しい価値の創造を図っています。これまでの成果として家庭のエネルギー使用状況を把握し、空調や玄関ドアなどを集中コントロールできる「D-HEMS3」などが挙げられます。

#### ノ：農業

農産物の生産現場における合理化・工業化により、食料の安定供給を図るとともに、食生活の安全性も追求します。これまでの成果として安全・安心な良質の野菜を簡単に栽培するための植物栽培ユニット「agricube（アグリキューブ）」が挙げられます。

### 技術の歴史や原点を知る「D'ミュージアム」

参加者はまず、世界中の環境共生住宅や大和ハウス工業における技術の発展の歴史を知ることができる「D'ミュージアム」を見学しました。

世界中の様々な住宅を実物や模型で展示しているエリアでは、人々がそれぞれの気候風土に適応するため様々な工夫を凝らしながら環境と共生してきた歴史について学びました。例えば、モンゴルでは遊牧民たちが年間を通して家畜の餌である自然の草を求めて移動を続けます。そこで、天井や壁が折りたためるため軽量かつコンパクトで移動が容易な円柱ドーム型のテント式住居「パオ」が生み出されました。



モンゴルで購入した「パオ」の実物展示

大和ハウス工業の創業から今日に至るまでの研究開発の記録をたどることができるエリアでは、“建築の工業化”を実現した「パイプハウス」やプレハブ住宅

の原点「ミゼットハウス」などについての実物展示を見ることができます。同社が社会の直面している課題を解決するため、技術面でどのような進化を遂げるとともにどのような商品を世に送り出してきたのかについて理解を深めました。



“建築の工業化”を実現した「パイプハウス」

### 【現在・未来と対話する「テクノギャラリー」】

続いて、総合技術研究所のこれまでの開発成果や思い描く未来の技術を見て、触れて、知ることができる「テクノギャラリー」を見学しました。テクノギャラリーにはテーマの異なる3つのゾーンがあります。

#### ビジネスゾーン

事業施設や商業施設の地震対策技術と環境配慮技術を紹介

#### ハウジングゾーン

大和ハウス工業の住まいの技術を実物大の空間展示や部材の展示で紹介

#### メッセージゾーン

社会課題の解決に向けたこれからの人・街・暮らしに求められる技術を紹介するとともに研究員の抱くより良い未来への想いを発信



普段は見ることのできない壁の内部の実物大展示

各ゾーンの展示物を通して、微生物を用いた土壌の浄化技術や開口部の広さおよび天井の高さによる住み心地の違い、自然エネルギーを活用する街づくりなど、幅広い観点から、住まいに関する最新技術および未来のアイデアの一端に触れて、様々な刺激を受けました。

### 【“建築の工業化”に懸けた「夢」とその軌跡】

次に、大和ハウス工業の創業者である石橋信夫の軌跡をたどることができる「石橋信夫記念館」を見学しました。

実際の肉声と映像による講義の再現や直筆の手帳といったゆかりの品々を通して、“建築の工業化”を旗印に掲げ、プレハブ住宅の先駆者として日本社会の発展に大きく貢献した石橋信夫の激動の人生とその「夢」について思いを馳せました。

### 【安全・快適を実現するテクノロジーを体感】

最後に、大和ハウス工業が提供する賃貸住宅の性能を体感できる一般公開していない賃貸住宅オーナーさま向けの施設「D-roomプラザ館」を見学しました。

「体験館」では、セキュリティ賃貸住宅の防犯性をはじめ、遮音性、耐震性などの基本性能を体験することができました。例えば、遮音性能体験では、界床および界壁の遮音性能について、外部から大音量を出力可能な装置を用いることで、従来の製品と新製品とを比較しながら体感することができました。参加者は、たとえ同じ音量であっても界床および界壁の遮音性能によって聞こえ方が大きく異なるということに驚きを隠せない様子でした。

「テクノロジー館」では、基礎や構造、外壁などに施された、住宅が完成してからでは分からない技術性能を確認することができました。実物大やそれよりも大きい展示物を見たり触ったりすることで、安全・快適を実現するための細部まで配慮されたテクノロジーを体感しました。

## ● 懇談会の概要

**Q** 地震や台風といった自然災害への対策について。

**A** 今年（2019年）の4月に「災害に備える家」を発売しました。太陽光発電システムとエネファームという燃料電池と家庭用リチウムイオン蓄電池という3つの電池を備えていて、停電があった際、雨天であっても約10日間は電力供給および暖房・給湯を確保できるようになっています。

**Q** 品質とコストとのバランスについて。

**A** 安心かつ快適に住んでいただくため高品質な住環境を提供することは重要ですが、お客さまに購入していただければ意味がないため、常にコストダウンを意識しながら研究開発に取り組んでいます。例えば、同業他社と比較して、「同じ性能であればより低コストに」「同じ価格であればより高性能に」ということを指標の1つとして、品質向上とコストダウンの両立を目指しています。

**Q** 環境への取り組みについて。

**A** 全社的な取り組みとして4つの重点テーマ「気候変動の緩和と適応」「自然環境との調和」「資源保護」「化学物質による汚染の防止」をコアとした環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”を掲げています。具体的には、徹底した省エネ対策の推進と再生可能エネルギーの活用や緑あふれる街づくりによる緑のノー・ネット・ロス、住宅・建築物の長寿命化と廃棄物のゼロエミッションなどを目指して取り組んでいます。

**Q** 農業の取り組みについて。

**A** 植物の栽培に必要なシステムをパッケージ化した駐車場1台分のスペースに簡単に設置できる植物栽培ユニット「agri-cube」を開発し、農業の工業化を目指していますが、単に工業化するだけでなく、福祉の観点も加えて、高齢者や障がい者が快適に働ける場としてレストランや商業施設、介護施設などあらゆる施設に提供できないか検討しています。



懇談会の様子

## ● 参加者からの感想

- ▶ 社会課題を解決するという創業の精神を伝承するためのハード（施設）もソフト（社員研修）も整い機能していることに感銘を受けました。
- ▶ これからも自然エネルギーの導入といった先進的な取り組みにより一層力を入れて、エネルギーの地産地消が可能な災害に強い街づくりを推し進めてほしいです。
- ▶ 大和ハウス工業といえば高品質な住宅を提供しているメーカーというイメージがありましたが、今回参加してみて、改めて品質・安全性への信頼が確認できました。
- ▶ 地震や台風などが多く災害大国である日本において、高品質な住宅を低コストで供給することは大変な努力を要しますが、このような努力が世界の住環境についても好影響を及ぼすものと思います。



### ●大和ハウス工業 ご担当者より●

このたびは、当社総合技術研究所の見学にご参加いただき、ありがとうございました。当日は長時間にわたる内容でしたが、見学中の皆さまの真剣な姿勢や活発な質問がとても印象的でした。質疑懇談では貴重なご意見をいただき、感謝しております。

当社では、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、今後も社会課題と向き合い、解決に貢献しながら人が心豊かに生きる社会の実現を目指してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

（文責 前 主任研究員 永井大）

## 大成建設株式会社 環状七号線地下広域調節池工事現場

### 夢と希望にあふれた社会づくりに学ぶ

9月30日、大成建設の環状七号線地下広域調節池工事現場（東京都中野区）で「企業と生活者懇談会」を開催し、社会広聴会員19名が参加しました。まず、日本建設業連合会から業界概要、大成建設から企業概要と工事の概要について説明を受けました。続いて地下約30～40メートルにある「環状七号線地下広域調節池工事」の現場や、トンネルを掘り進めていく巨大なシールドマシンを見学し、最後に質疑懇談を行いました。

大成建設からは、環七地下調節池作業所の田中敦副所長、小松祥子工事課長代理、コーポレート・コミュニケーション部CSR推進室の新村達次長、広報室の原口翼主任、日本建設業連合会から永山貴一広報部長、東京都から第三建設事務所工事第二課の立澤延泰統括課長代理が出席しました。

### ● 日本建設業連合会からの説明

#### 日本建設業連合会の概要

日本建設業連合会（日建連）は、全国で事業を展開している総合建設会社、いわゆる大手ゼネコン142社からなる業界団体です。建設業に係る諸制度をはじめ、土木や建築、防災、安全、環境などの企業単独では解決できない様々な問題に対して、国や行政に意見書を提出したり、社会に対して情報を発信したりするなど、建設産業の健全な発展を図り、国民生活と産業活動の基盤の充実に寄与しています。

#### けんせつ小町について

現在、建設業界では若手の不足や就業者の高齢化などが最大の課題になっています。日建連が2015年3月に発表した長期ビジョンでは高年齢層の大量離職を背景に2025年までに128万人程度の技能者数の減少を見込んでおり、生産性向上による35万人分の省人化と、若者を中心に90万人、うち20万人は女性の新規入職

者の確保を目標としています。また、女性の活躍推進として、2014年3月に「女性技能労働者活用方策」などを策定し、女性技能者数を5年以内に倍増することを目指して、積極的な取り組みを始めました。このような取り組みの中で、建設業で働く全ての女性の愛称を「けんせつ小町」に決定しました。

2015年4月には、女性が働きやすい現場環境を整備するためのマニュアルを作成し、休憩室や女性用トイレ、授乳スペース、パウダーコーナーなど、実際に働く女性の声を反映した環境が整備されるようになりました。また、「けんせつ小町」の取り組みを社会に広く伝えるため、2015年から夏休みに女子小中学生の現場見学会を毎年開催しています。第5回となる2019年は、会員企業18社の協力のもと、全国各地の土木・建設現場に374名が参加しました。取り組み開始から5年間で計79カ所の現場に、延べ1947名の女子小中学生と保護者が現場の見学と体験をしています。

建設業界で働く女性の数は、2014年は75万人でしたが、2018年には82万人と増加しています。このうち女性技能者も8万人から10万人へと増えています。女性就業者が増えることは、建設業での働き方の多様化につながり、現場を含めた職場環境の改善、長時間労働の是正などが期待されます。

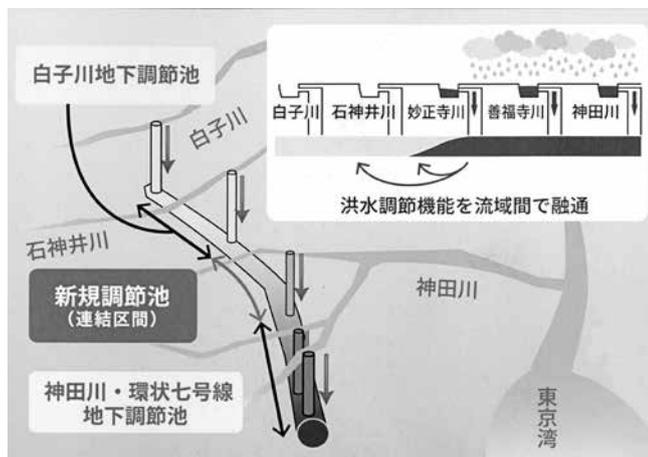
### ● 大成建設からの説明

#### 大成建設の概要

大成建設は、1873年に大倉喜八郎が大倉組商会を設立したことから始まります。輸出入貿易や建物の造営を担い、優秀な技術者を集め、近代的土木工事の先駆けとなった琵琶湖疎水や、現在の東京メトロ銀座線の上野～浅草間2.2キロメートルの東洋初の地下鉄工事などを成功させました。1946年大成建設へと社名を変更しました。その後、同社は国立競技場（1958年）や国際ホテルのホテルニューオータニ（1964年）、青函トンネル（1987年）など多くの国家プロジェクトに携わってきました。近年ではトルコイスタンブール市のボスポラス海峡横断鉄道トンネル（2013年）、カタールの新ドーハ国際空港（2013年）などの海外インフラ事業、環境配慮型のビルの開発にも着手し、同社のグループ理念である「人がいきいきとする環境を創造する」に取り組んでいます。

## 環状七号線地下広域調節池工事の概要

東京都では、台風や集中豪雨による水害から都民の生命と財産を守るため、河川の護岸や調節池などの整備による治水対策を進めています。大成建設が主となる共同企業体が、環状七号線地下広域調節池工事を進めています。この環状七号線地下広域調節池は、白子川、石神井川および神田川流域で、1時間当たり75ミリメートルの降雨に対応するため、すでに整備されている神田川・環状七号線地下調節池と白子川地下調節池を連結するもので、2025年度の供用開始を目指しています。環状七号線と目白通りの地下に内径12.5メートル、延長約5.4キロメートルの河川の洪水を貯留する大規模なトンネル構造の調節池を整備します。これらの整備が完了すると、総延長13.1キロメートル、合計140万立方メートルを超える貯留施設となります。白子川、石神井川、妙正寺川、善福寺川、神田川の5河川にまたがることから、貯留量を複数の流域間で相互に融通することで、1時間当たり100ミリメートルの局地的かつ短時間の集中豪雨にも効果を発揮します。

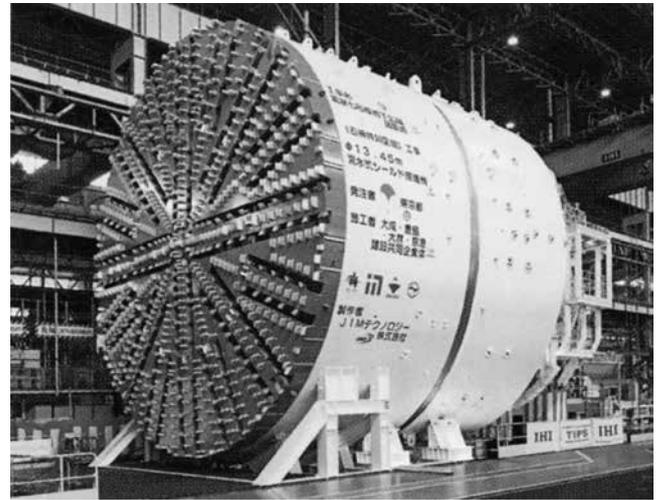


環状七号線地下広域調節池とは（東京都より資料提供）

## トンネル状に掘り進める巨大なシールドマシン

調節池となる地下トンネルは、泥水式シールドマシンを使用したシールド工法によって構築します。シールド工法は、シールドマシンと呼ばれる筒状の機械によって、地中をモグラのように掘り進めていく工法です。前面を回転させながら、カッタービットと呼ばれる刃で土を削り取りシールドマシン内に取り込まれ、排泥管（鉄製のパイプ管）を通して地上へ運び出されます。シールドマシンの後方ではセグメントと呼ばれるトンネルの壁となる円弧形状のブロックを組み立て

て、掘削とセグメントの組み立てを繰り返しながら、トンネルを構築していきます。今回の工事で使用するシールドマシンは、外径13.45メートルで、鎌倉大仏とほぼ同じ大きさの大型のものです。



シールドマシン（東京都より資料提供）

## 見学の様子

### 妙正寺川取水施設（発進立坑）

2020年3月末に妙正寺川取水施設（発進立坑）から到達立坑に向けてシールドマシンが発進する予定です。参加者は、発進立坑（中野区野方）の工事現場で発進までの準備段階の様子を見学しました。



副所長より工事現場の説明

地上から工事用のエレベーターで、地下約30～40メートルまで降り、シールドマシンが配置されている様子を見ながら説明を受けました。工場で1年半かけて製作されたシールドマシンは、一度分解した状態で現場に搬入されます。重さが2500トンもあり、約120台に分けて陸送したそうです。組立開始前に周囲に防音壁を設置し、750トン吊のクレーン等を使って半年

間で元の状態に組み立てられます。設置されたシールドマシンには、中折れ装置と呼ばれるものが設けてありました。これは、曲線区間において掘削断面積をなるべく小さくするために設けてあるもので、シールド機がほぼ中央の位置で、左右に最大4.3度屈曲することが可能となっています。今回の工事では、急曲線区間が3カ所あり、中折れ装置があることで、地盤を掘る際の地表面の沈下リスクを小さくする効果があります。

シールドマシンの発進方向と反対側を見るとコンクリートの壁（隔壁）がありました。これは、すでに整備されて供用中の神田川・環状七号線地下調節池から、取水した洪水が、施工エリアに流入してこないために設置したものです。また、隔壁はシールドマシンが発進する際の力を受け止める反力壁としての役割もあります。



シールドマシンを覗き込む様子

今後の工事は、組み立てたシールドマシンの溶接、艀装工事、地上では、泥水処理設備、土砂を搬出する設備の組立、およびそれらの設備を覆う防音ハウスの組立等を行います。実際にシールドマシンが動き出すと、昼夜2班体制（昼：8時～17時、夜：20時～5時）で作業を行い、1日に最大10メートルほど掘り進めます。

次に工事現場内にあるデジタルサイネージの説明を受けました。デジタルサイネージには、当日の作業内容が図と共に表示されており、朝礼時にその日の作業内容や、注意事項等の説明を行う際に利用しています。また、熱中症予防として熱中症指数（WBGT）計を各作業班が持っており、その計測値に合わせて1時間ごとに強制的に水分補給を行ったり、休憩時間を設け、クーラーが効いた涼しい休憩室でしっかりと休みを取ったり、徹底した管理がされていました。



デジタルサイネージや掲示で情報共有を行う

## 懇談会の概要

**Q 「東京2020大会」後の事業展開について。**

**A** 2020年以降の事業環境においても持続的に成長するべく当社は経営課題の重点施策として、海外事業の持続的な成長と海外市場に通用する企業体質への転換を図っています。取り組みの1つが東南アジアや発展途上国へのインフラの輸出です。政府が様々な省庁と連携を取りながら、日本の高度なインフラシステムを輸出しています。現在、パラオ国際空港拡張工事に参画し、設計と施工を担当しています。このような政府案件に積極的に参画し市場開拓しながら、さらなる企業拡大を目指しています。一方、国内では、インフラ整備の継続や、市街地再開発、研究・生産施設や高度成長期の建造物の更新など、多数の潜在需要があります。

**Q 働き方改革について教えてください。**

**A** 長時間労働是正のため、4週8休と第2土曜日の閉所を推進しています。2018年度は4週間で8日以上の休暇取得者が91%、第2土曜日の閉所については57.3%となっています。また、2016年7月から男性社員の育休取得率100%を目指し、社長メッセージ発信や制度拡充などによって、男性社員の育休取得率は94.2%、平均取得日数は5.8日（2019年3月末）に達しました。このような取り組みにより、制度を利用しやすい企業風土を醸成し、働きがいのある魅力的な職場環境づくりを行っています。

**Q** けんせつ小町の实情についてお聞かせください。

**A** 現在、当社では、土木技術者の女性職員が約100名、そのうち工事現場で監理技術者として2名程度が働いています。私が入社した年は、土木系の女性の新入社員が4名でしたが、今では毎年10名ほどと、採用数が増えています。今後、ますます女性の技術者が増えていく傾向にあります。また、子育て中は、現場での就業後、女性だけでなく男性も、子どものお迎えなどで早く帰ることがしやすい環境です。希望をすれば本社や支店の部署へ異動できるなど、柔軟な対応で働きやすい環境です。



懇談会の様子

**Q** 都心での工事の際、近隣地域の方々にどのような配慮をしていますか。

**A** 防音壁や防音ハウスはもちろん、騒音が少なく、振動のない工法を選択し作業を進めています。また、資材を運搬するトラックのアイドリングストップや、車両の出入りが多い工事現場では、常にガードマンを4名配置し、歩行者の安全を守っています。また、週間工程表の配布や工事の進行状況が分かるタッチパネル式モニターを設置し、情報提供にも努めています。そして、週に1回朝礼後に、現場周辺の掃除を行ったり、雪が降った際は歩道の雪かきをしたり、地域の方々へ向けた活動にも取り組んでいます。

**Q** 環境問題に対する取り組みは。

**A** 2050年環境目標（「TAISEI Green Target 2050」）の1つとして、循環型社会を実現するために、建設廃棄物の最終処分率ゼロという目標を掲げています。現状では、工事後に残る廃材や廃プラは、現場で徹底した分別を行った後、処理業者を介して

約3.5%が埋め立て地に最終処分されています。引き続きゼロ達成を目指して重点的に取り組んでいきます。

## 参加者からの感想

- ▶ 着工からすでに2年半が経過し、完成まで長期にわたることに大変驚きました。これからシールドマシンが発進する状況だということで、モチベーションを維持しながら、無事故で作業を行っていることに敬意を表します。
- ▶ 普段私たちが見えないところで、防災事業が着々と進められているのを見て、非常に心強く感じました。大規模災害が相次ぐ中、治水行政の重要性を再確認することができました。
- ▶ ITの活用で技能者技術の見える化や、質の良い材質によってメンテナンスの回数が減ったり、機械の性能向上など、様々な技術を結集して工事が進んでいると実感しました。
- ▶ 新3K（給料が高い、休暇が取れる、希望がある職業）を目指して、職場環境の改善に広く取り組み、少子高齢化への強い危機感とそれに立ち向かう強靱な姿勢が感じられました。
- ▶ 女性ならではの視点を現場に生かしたり、作業員や地域住民とのコミュニケーションが円滑になるというお話を伺い、感動しました。もっとたくさんの女性に建設業界で活躍してほしいと思いました。



## 大成建設 ご担当者より

このたび、当社作業所の見学にご参加いただき、誠にありがとうございました。見学会を通じて、建設業の現状、課題、そして魅力がご参加された皆さまに伝わり、大変うれしく思います。昨今、自然災害の多発によりインフラ整備が再注目されています。インフラ整備の中心を担う当社は今後も品質の高いインフラを構築することで、市民の皆さまの安全な生活を支えてまいります。

（文責 主任研究員 山崎安希子）

## 「社会広聴会員」からの ご意見・ご感想

### 「企業の広報部門の役割に関するアンケート」 について

- 広報は、報道対応や社内広報だけでなく、企業イメージ向上や必要な情報収集に取り組むことが重要だと理解できました。(70代・男性・奈良県)
- 良いニュースより悪いニュースのときの発信力、対応に広報部門の差、価値が分かると思います。(40代・男性・東京都)
- 企業の広報は営業活動の一環というイメージでしたが、危機管理やお客さま窓口対応などもあると知り、なるほどと思いました。(30代・女性・埼玉県)

### 「動き出すSDGs」について

- 富士ゼロックスの、中国深圳での「調達先のCSRリスクに起因する生産ラインストップ時間ゼロ」の取り組みは、参考になりました。(50代・男性・東京都)
- 企業の活動が国際化することで、進出した各国の仕組みに対応した対策が必要なことが分かりました。(50代・女性・茨城県)
- SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) という言葉が一般的になってきたと思います。(20代・女性・東京都)

### 「企業と生活者懇談会」について

#### 〈セコム〉

- セキュリティ事業のみならず、安心して暮らせる社会への構築を目指して、日々研さんを重ねていることに感銘を受けました。(80代・男性・東京都)
- 海外でもセキュリティ事業を展開していることを、今回初めて知りました。(50代・女性・埼玉県)
- カメラによる顔認証やドローンの使用法など、近未来のセキュリティの在り方を示すものだと考えます。また、東京マラソン大会など大きなイベントの運営方法は、東京2020大会の警備の方向性が分かる説明だと思いました。(50代・男性・東京都)
- セコムの警備員が全員正社員とは驚きました。それだ

けでもたたえたいし、技術も素晴らしいと思いました。  
(60代・女性・兵庫県)

### 「生活者の企業施設見学会」について

#### 〈いすゞプラザ〉

- いすゞミニチュアワールドは、写真を見るだけで非常に興味をそそられ、実車展示ゾーンにもぜひ行ってみたいと思いました。「くるま好き」にとってはたまらないショールームですね。(70代・男性・広島県)
- このような施設は、企業と消費者の距離を縮めるのに役立つと思います。(50代・女性・埼玉県)
- 「いすゞ」が伊勢神宮の五十鈴川にちなんでいると知り、親近感を持ちました。(60代・女性・滋賀県)
- 初めて乗ったリアエンジンの車がいすゞです。懐かしい思い出と一緒に読みました。未来の配送トラック、どのようなものかと期待しています。(70代・男性・埼玉県)

### セミナー「豊かな健康長寿社会をいかに実現するか」について

- 長寿社会の中で、生命保険業界の役割について知ることができました。(50代・男性・北海道)
- ヘーベルハウスの、モニターを通しての改革への取り組みは素晴らしいと思いました。やはり使う側の本音が分からないと一番良い形にはならないものだろうと思います。(60代・女性・栃木県)
- タニタグループの取り組みによって、グループ全体の医療費が1人当たり年間約1万8000円も削減できたという記事が印象的でした。医療費削減はもとより、健康長寿は大切です。「食事」や「歩くこと」を見直したいと思いました。(30代・女性・埼玉県)

### 講演会「エネルギーの過去と未来のはなし」 について

- 「完璧なエネルギーは存在しない」「選択肢を捨てるリスク」にハッとしました。もっと総合的に考えるべきだと思いました。(20代・女性・東京都)
- 「日本は先進国の中で唯一、エネルギーインフラが他国と連結しておらず、供給のほとんどを輸入に依存している」ことは、日本人全員が認識すべき重要事項だと思います。(80代・男性・岡山県)
- 日本が資源のない国とは分かっていたのですが、改めて考えさせられました。子どもたちは知っているのでしょうか。厳しい現実を知らせていかなければならないと思いました。(50代・女性・兵庫県)

# 経済広報センターニュース

## 2019 小学生「クルマのある風景」フォトコンテストを実施 ～応募総数 9038 点から最優秀賞 6 点を選出～

経済広報センターは、小学生を対象に実施した第3回「クルマのある風景」フォトコンテスト（後援：一般社団法人日本自動車工業会）の受賞作品を決定いたしました。このコンテストは、将来のモビリティ社会を支えていくことが期待される若年層の関心を高めるべく、子どもたち（小学生）に、クルマへの親しみを覚えてもらうこと、関心を持ってもらうことを目的に実施。応募総数9038点（応募者数2758名）の中から厳正な審査の結果、最優秀賞6点、優秀賞17点、佳作29点を選出いたしました。

### 【最優秀賞作品：6点】



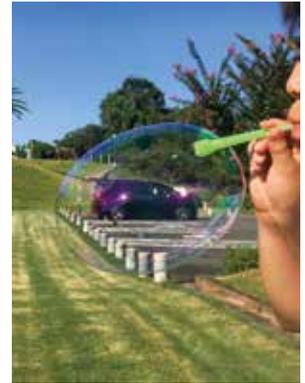
「みんなでトラクター」  
尾田恵祐さん（埼玉県3年生）



「弟の初参加」  
三枝穂乃華さん（兵庫県3年生）



「車で女子会」  
砂子杏慥さん（神奈川県3年生）



「シャボン玉の中に」  
岡坊悠翔さん（愛媛県5年生）



「秋空の下」  
近藤三葉さん（岩手県5年生）



「おそろいだね」  
鈴木眞歩さん（茨城県6年生）

※受賞作品  
(最優秀賞、優秀賞)は、  
経済広報センターの  
ウェブサイトに  
掲載しています。  
<https://www.kkc.or.jp/>

## 日本経済新聞に意見広告を掲載

**SOCIETY 5.0**  
CONCRETE FOR THE FUTURE

新たな時代「Society 5.0」では、デジタル化によって社会の在り方が根本から変わります。新たな時代に価値を創造し続けるには、産業構造の改革を図ることが重要です。企業は、デジタル革新を遂げながら、ビジネスを通じて社会の多様な課題を解決する存在へと変わらなければなりません。

また、次代を担う主役となるスタートアップの振興を図ることも重要です。経団連では、「スタートアップ委員会」を新たに立ち上げ、起業振興に向けた政策提言やスタートアップと大企業の連携促進などの取り組みを積極的に進めています。

詳しくは 

一般社団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2019年9月13日 日本経済新聞掲載

**SOCIETY 5.0**  
CONCRETE FOR THE FUTURE

人々が多様な価値を追求する創造社会「Society 5.0」に向けて、様々な領域で変化が起きます。働き方や雇用もその一つです。デジタル技術の普及によって、時間や場所にとらわれることなく、フリーランスなどの形で働くことも可能となっています。雇用慣行も一律・横並びのものではなく、多様な人材が多様な雇用形態・処遇制度で活躍できるものへと変わらざるを得ないでしょう。

経団連は「採用選考に関する指針」を廃止するなど、様々な改革に取り組みつつあります。新たな時代の新たな働き方を、ともに考え、創っていきましょう。

詳しくは 

一般社団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2019年10月10日 日本経済新聞掲載

**SOCIETY 5.0**  
CONCRETE FOR THE FUTURE

「Society 5.0がどんな社会か分からない」という声をよく聞きます。そんなものは分らなくて当然です。技術の進歩は止まらず、私たちの生活や産業の在り方を大きく変えていくことは間違いないでしょう。しかし、その先の未来は決まっています。どのような社会を創るかは私たちの意志次第です。AIやロボットによる自動化が進む時代だからこそ、私たちの想像力・創造力が重要です。

Society 5.0は、訪れるものではなく、共に創りあげていくものです。あなたが創りたいのはどんな社会ですか？

詳しくは 

一般社団法人  
経済広報センター <http://www.kkc.or.jp/>

2019年11月8日 日本経済新聞掲載

## セミナー「未来の社会はどう変わるか ～ Society 5.0 時代を生きるために～」を大阪で開催

2019年10月3日、セミナー「未来の社会はどう変わるか ～ Society 5.0時代を生きるために～」を開催しました。（参加者：社会広聴会員、企業・団体関係者など81名）

〈講演〉

- 「Society 5.0 ～ともに創造する未来～」  
小川 尚子 日本経済団体連合会 産業技術本部 統括主幹
- 「Society 5.0時代のヘルスケア」  
宮田 裕章 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室 教授

# 表紙のことば

今回のアンケートでは、「シニア」は60歳以上、「老人」「高齢者」は70歳以上をイメージすることが分かりました。一般的に「65歳以上」が「高齢者」の定義とされていましたが、その定義は変わりつつあります。また、2025年以降、日本人の5人に1人近くが75歳以上という超高齢社会が到来し、これによって起こる様々な問題を2025年問題と呼んでいます。政府はこの問題を見据えて、医療・介護制度の見直しや介護人材の育成、人材不足解消のためロボットやAI導入などを進めています。個人としても、健康維持増進や疾病予防のための取り組み、老後について家族と話し合うなどして、今から備えていく必要があるといえます。



## 山本 幸恵

2020年、新年明けましておめでとうございます。昨年も、各種イベントへのご参加や「ネットワーク通信」のご愛読、誠にありがとうございました。

今年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年ですね。スポーツはもっぱら観る専門でしたが、今年こそ、さぼりがちだったジム通いを復活させて体力づくりに励みたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 鴨奥 琴

明けましておめでとうございます。今年は、オリンピック・パラリンピックが東京で開催され、選手の方々の勇姿を見られることがとても楽しみです。活気溢れるこの1年は、私も趣味でもある山登りで体を動かしながら、きれいな景色をたくさん見ていきたいと思います。皆さまにとっても、素敵な1年となりますように。

## 山崎 安希子

初日の出を見に行くことが新年の恒例行事となっています。日の出を待つ間、乾いた冷たい空気で体は芯まで冷えますが、光り輝く大きな太陽を見ると自然と心も体もシャキッとし、良い1年を迎えられそうな気分になります。その後、温かいお雑煮を食べてホッとするのも初日の出の醍醐味ですね。

## 高橋 美香

毎年懲りずに目標を立て、新しいことにチャレンジしています。昨年は、周りから「何の役に立つんだ」と言われながらも「あみぐるみ」に挑戦。集中してモノを作る楽しさに「はまり」ました。オリンピック・パラリンピックイヤーの2020年、何か新しいスポーツに挑戦してみたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします。

## 多田 優紀

令和元年を振り返ると一番の思い出は、ラグビーW杯日本大会でした。「にわかファン」も大歓迎というムードに支えられ、大変盛り上がりました。倒されても倒されても起き上がり前に進む選手の姿にとっても感動しました。今年は、「東京2020大会」。おもてなしの気持ちを整えていきたいと思っています。

## 佐藤 亜矢子

新年のカレンダーに掛け替えると、2月、3月とめぐり、お花見はこの週、旅行はこの時期など、様々な思いを巡らせます。今夏はなんといっても「東京2020大会」。観戦席で熱い声援を送っている私の姿が目に見えます。イメージトレーニングはバッチリです。あとは、チケットを入手するのみ。

社会広聴活動レポート

ネットワーク通信 2020 No.81 新春号



発行／一般財団法人 経済広報センター  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階  
TEL:03-6741-0021 FAX:03-6741-0022  
発行日／2020年1月9日

<https://www.kkc.or.jp/>



社会広聴会員の入会、  
詳しい活動内容を知りたい方はコチラ